

国語 第4学年 言葉を選んで詩を書き、友達と読み合おう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、気持ちが変わったときの様子を表す言葉を選んで詩を書き、読み手に浮かんだ様子と作者の意図を比べる。好みの評価で終わらせず、どの表現によって何が伝わったかを交流する。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

———ここから直す対象の学習指導案———

第4学年 国語科学習指導案

1 単元名 「言葉を選んで詩を書き、友達と読み合おう」 教材名「心が動いたことを言葉に」

2 単元の目標

気持ちや様子を表す語句を増やし、詩の中で意味や響きを確認して使える。書こうとしたことが明確になっているか感想を伝え合い、自分の詩の表現のよさを見付けられる。言葉の働きを確認し、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①気持ちや様子を表す語句を増やし、詩の中で意味や響きを確認して使っている。〔知識及び技能〕(1)オ)

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているか感想を伝え合い、自分の詩の表現のよさを見付けている。(B(1)オ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

気持ちが変わったときの様子を表す言葉を選んで詩を書き、読み手に浮かんだ様子と作者の意図を比べる。好みの評価で終わらせず、どの表現によって何が伝わったかを交流する。学習指導要領のB(1)オを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)オを、言語活動の中で確かめる。年間計画の重点項目に加え、本案では〔知識及び技能〕(1)オを活動に関わる事項として扱う。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

作者は先に意図を説明せずに詩を読んでもらう。読み手は印象と、その根拠の言葉を示す。作者は感想を聞いた後で残す表現と直す表現を選び、その理由を話す。おおむね満足できる状況は、書こうとしたことが明確になっているか感想を伝え合い、自分の詩の表現のよさを見付けているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確認する支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全7時間）

第1次 第1時：○気持ちが変わった出来事を思い出し、そのときの音や動き、色などを言葉にする。評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2時：○最も表したいことを選び、語句の響きや並べ方を試す。評価：知①（語句や内容の整理）

第2次 第3時：○詩の下書きを書き、声に出して読みながら語句を選ぶ。評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第4時（本時）：○読み手に浮かんだ様子を聞き、表したかったことが伝わる表現を確かめる。 評価：思①（発言・学習記録）

第2次 第5時：○感想を受け、残す表現と直す表現を決めて推敲する。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第6時：○詩を仕上げ、表現のよさを添えて交流する。 評価：学習状況を見て支援する。

第3次 第7時：○下書きと完成稿を比べ、選んだ言葉の働きを振り返る。 評価：態①（学習前後の記録・振り返り）

6 本時の指導（4／7）

（1）本時の目標

書こうとしたことが明確になっているか感想を伝え合い、自分の詩の表現のよさを見付けられる。

（2）学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。

○「書いた人が表したかったことは、どの言葉から伝わりましたか。同じ様子が浮かんだ所と違った所はどこですか」

【めあて】気持ちが変わったときの様子を表す言葉を選んで詩を書き、読み手に浮かんだ様子と作者の意図を比べる。

予想される児童の反応：・動きを表す言葉から驚いた感じが伝わった。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「書いた人が表したかったことは、どの言葉から伝わりましたか。同じ様子が浮かんだ所と違った所はどこですか」

自分の詩を読み合い、表したかった場面がどの語句から伝わったか感想を返す。書き手は表したかったことと感想を照らし、自分の詩のよい表現とその理由を記す。伝わりにくかった箇所は言葉や響きを確かめ直す。

予想される児童の反応：・動きを表す言葉から驚いた感じが伝わった。

・同じ言葉の繰り返しが印象を強めている。

・説明を減らした方が、自分の表したい景色が伝わりそうだ。

指導上の留意点：作者は先に意図を説明せずに詩を読んでもらう。読み手は印象と、その根拠の言葉を示す。作者は感想を聞いた後で残す表現と直す表現を選び、その理由を話す。

想定する難しさ：技法を使った数でよさを決める。読み手の意見を全て受け入れて作者の意図が消える。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思① 書こうとしたことが明確になっているか感想を伝え合い、自分の詩の表現のよさを見付けている。

（自作の詩・相互の感想・自分の表現のよさを記した文）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・説明を減らした方が、自分の表したい景色が伝わりそうだ。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。

評価：態①（学習前後の記録と、見直した理由）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「書いた人が表したかったことは、どの言葉から伝わりましたか。同じ様子が浮かんだ所と違った所はどこですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じと

ころを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

